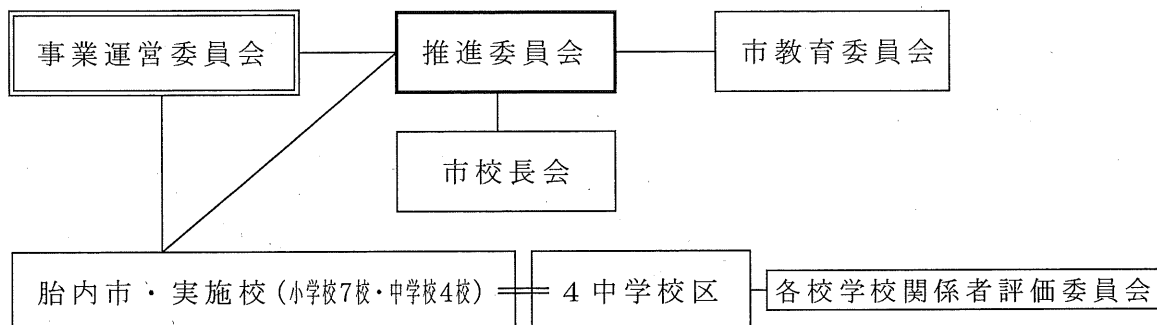


平成23年度 胎内市の学校評価への取組概要

1 胎内市における取組概要及び問題点・改善点

(1) 学校評価システム推進に向けた組織の充実



- 市立全小・中学校を実施校とするとともに、各校の代表で構成する推進委員会の提案を基に同一方向の実践を進めてきた。事業成果等の共有と改善に取り組むことで、事業の充実に努めてきた。
- 県教育庁下越教育事務所との連携を密にした実施校への指導・助言を実施した。
- 各小中学校長、高等学校長、幼稚園長、学校関係者評価委員等の代表で構成する運営委員会では、推進の方向性や改善に向けての協議を行った。
- 中学校区内の各小・中学校が課題を共有し、解決に向けた方策を協議する学校評価システムを実施し、小・中学校の行動連携に努めてきた。
今後、取組を更に深めていく。

(2) 学校運営の改善に結び付く学校評価システムの在り方

- ① 学校評価年間サイクルの工夫
- ② 評価結果との関連を図る市の教育方針、教育委員会の支援等の在り方
2学期末に実施する1年間の自己評価と学校関係者評価に加え、1学期末に自己評価による中間評価を実施し、改善を図ってきた。また、共通評価シートAにおける全小・中学校の評価集計結果を基に、市の教育の重点・努力事項を見直し、次年度の内容を設定した。リーフレットについては、完成後、全教職員・全家庭に配布することとし、市の教育の重点・努力事項の周知を図ってきた。
市の教育の重点・努力事項の取組状況と充実にに向けた取組の在り方を検討し、翌年度の教育の重点・努力事項を適切に設定することが課題である。

(3) 共通評価シートの作成

- ① 達成目標に結び付く実施目標（具体的方策、評価基準）の改善と設定
- ② 中学校区内の行動連携に結び付く取組の推進
市の教育の取組状況を評価する共通評価シートA（市共通評価シート）を作成するとともに、シートB（中学校区共通評価シート）、シートC（各学校独自の評価シート）で学校評価を実施した。
共通評価シートAは、市の教育の重点・努力事項と同一の評価項目とした評価シートとし、確実な取組の意識付けを図った。
共通評価シートBは、中学校区ごとに検討委員会を開催し、行動連携を意識した取組とした。小・中学校で連携して問題分析を行い、共通課題・課題解決に向けた具体的方策を設定し、実施・評価に結び付けた。そのことが、中1ギャップの解消にもつながっている。
共通評価シートAにおける具体的方策と成果との整合性を図ることが課題である。

(4) 自己評価の客観性を高める学校関係者評価委員会の在り方

① 学校関係者評価委員構成の在り方

② 学校関係者評価委員研修の工夫

校長の推薦により市教育委員会が委嘱する学校関係者評価委員（保護者、地域住民を必ず含む）は、各校5名を原則に構成した。学校の自己評価の客観性を高めるとともに、学校の応援団として有意義な存在であった。

学校関係者評価委員の他校訪問や学校間での取組を紹介し合う情報交換研修などの機会を積極的に設けていく必要がある。

2 協力校における取組概要及び問題点・改善点

(1) 学校評価シートの在り方

① 成果・教育活動・運営活動の関連を図る評価項目の改善と設定

② 具体的な達成目標の設定と授業改善に向けたPDCAサイクルの在り方

県の5つの共通評価項目に基づいた成果・教育活動・運営活動のそれぞれの項目・評価基準を設定した。各校とも知育・徳育・体育等の部会に全教職員が所属し、学校評価シートの在り方（成果目標、評価基準の妥当性、信頼性等）について検討するとともに、1・2学期末に評価と改善を図った。

市教育委員会としては、中学校区訪問及び各学校訪問を通じて、各学校への具体的指導を充実させていく。

(2) 自己評価の客観性を高める学校関係者評価の在り方

① 学校訪問等を含めた学校関係者評価委員会の持ち方

② 学校関係者評価に先立つ自己評価結果等の説明の工夫

学校関係者評価委員による一日参観、担任との自由協議、研究授業参観及び協議会への参加、訪問時の意見交換等の取組が見られた。

学校の応援団として、授業参観や行事等への参加を積極的に呼び掛け、意見交換や対話を通じ、学校の状況について相互の共通理解を図ってきた。それらを土台に、学校の説明と学校関係者評価委員一人一人の評価を総合的に判断し、学校関係者評価を実施した。

自己評価結果等の説明については、自己評価の判断根拠資料を事前に送付したり、実際の説明はそれぞれの担当者が説明したりする等の取組が見られた。具体的な成果及び自己評価の根拠や過程を説明する資料を日常的に蓄積し、整理しておくことや、分かりやすい説明の工夫を更に心掛ける必要がある。

(3) 説明・公表の在り方

① 保護者や地域住民等への分かりやすい情報提供（内容、方法）の工夫

② 自己評価・学校関係者評価結果の公表（内容、方法）の工夫

学校評価説明会、学級・学年懇談会・PTA常任委員会・学校を語る会等での説明、学校評価便り（学校区全戸配布）、学校便り、ホームページ等、多様な機会を通じて、目指す学校や子どもの姿、取組と評価、改善策等を説明・公表してきた。

その場合、説明会においては視聴覚機器を活用する、学校評価やアンケート等の結果は集計のみの公表とせず、改善策等を載せて今後の方向性を示す、便りはレイアウトや写真を工夫し、できるだけ見やすく、読みやすい構成を工夫する等に努めてきた。

ホームページでの公表の時期に配慮するとともに、保護者説明会での参加者の増員が課題である。

3 学校評価全般に渡る取組の成果

- 学校評価に対する教職員の意識化が図られ、PDCAサイクルによる学校評価スタイルが定着してきた。また、成果目標達成のための校内組織の整備を図った

り、達成状況を整理・公表したりする過程を通して、教職員一人一人の参画意識や協働性が高まるとともに、ミドルリーダーを中心とする推進体制が整ってきた。このことが、学校の改善や教育活動の充実、児童生徒の変容につながっていると実感することができ、教職員一人一人の自信に結び付いている。

- 市全体や中学校区での目標や取組を明らかにしたことで、同一校種間や異校種間の連携が促進された。また、成果目標や実施目標を明確にすることで校内組織が活性化し、重点化した学校運営に取り組むことができた。
- 評価シートA・B・Cを作成することで学校評価の全体把握及び市全体と各校の比較が可能になるとともに、共通評価シートAを市の教育の重点・努力点と連動させることで市の教育の目指す方向をより意識し、努力しようとする姿を強めることができた。
- 学校関係者評価を導入することにより、根拠を明確にした客観的な評価の重要性が認識できた。また、学校関係者評価委員による一方的な評価でなく、学校と学校関係者評価委員との双方向的な協議を通して相互理解を深めることで、多様な意見や多面的な視点からの提言が聞かれ、教育活動のよりよい改善策を策定することができた。開かれた学校、信頼関係の構築にも役立っている。
- 学校関係者評価は、学校評価の有効性や信頼性を高め、学校の教育活動を活性化するとともに、開かれた学校づくりをより推進した。また、学校の応援団として、地域と協働した取組に有効であった。
- 学校関係者評価は、自己評価に対する多様な視点からの評価・助言となり、次年度への改善に向けて大変有効であった。
- 広報紙やホームページ、胎内市の教育リーフレット、学校評価説明会等から、保護者や地域住民の学校への理解や関心が促された。

4 協力校とリンク

| 学 校 名 | ホ ー ム ペ ー ジ ア ド レ ス |
|------------|---|
| 胎内市立中条小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/nakajo-es/ |
| 胎内市立胎内小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/tainai-es/ |
| 胎内市立きのと小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es/ |
| 胎内市立築地小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/tsuiji-es/ |
| 胎内市立黒川小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/kurokawa-es/ |
| 胎内市立鼓岡小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/tsuzumioka-es/ |
| 胎内市立大長谷小学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/ohnagatani-es/ |
| 胎内市立中条中学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/nakajo-jhs/ |
| 胎内市立乙中学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-jhs/ |
| 胎内市立築地中学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/tsuiji-jhs/ |
| 胎内市立黒川中学校 | http://tainai-ed.nxc.jp/kurokawa-jhs/ |